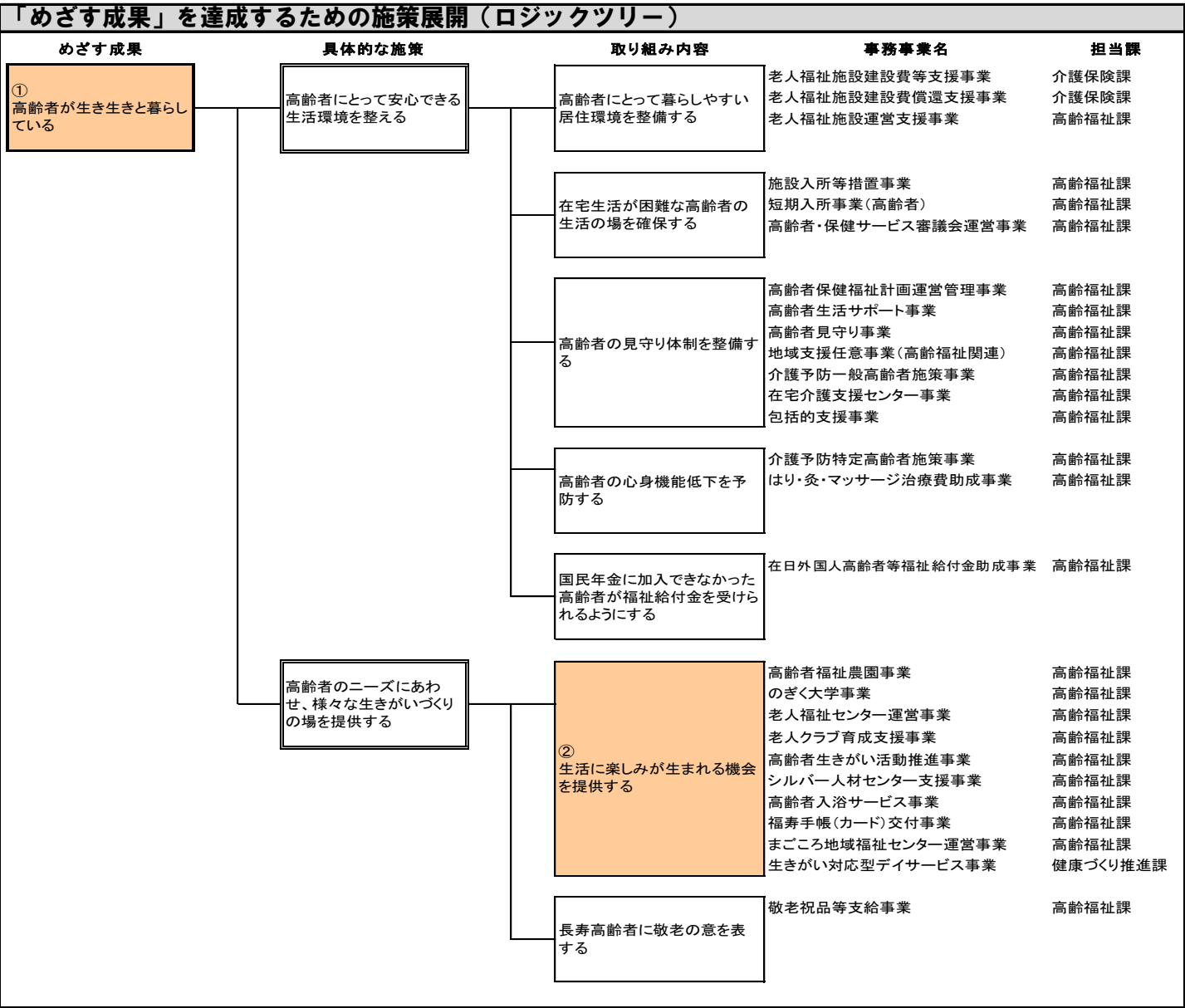


「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
1－3－3 高齢者が生き生きと暮らしている		
総合計画体系	健康領域・基本目標	人の健康・一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち
	個別目標	支えあいによる地域福祉を推進する
	めざす成果	高齢者が生き生きと暮らしている 高齢者が暮らしやすい生活環境の中で、生きがいをもって生活しています。



総合計画掲載指標①		総合計画掲載指標②	
高齢者は地域で生き生きと活動していると思う市民の割合		シルバー人材センターの会員数	
計画策定時	47.6%	計画策定時 現状値	688人
実績値 （H21）	50.0%	実績値 （H21）	835人
中間目標値 （H23）		中間目標値 （H23）	1,200人
目標値 （H25）	52.0%	目標値 （H25）	1,300人

「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート	
主な取り組み内容	【高齢者にとって安心できる生活環境を整える】 ・地域の高齢者総合相談窓口をはじめ、介護予防や高齢者虐待対応など権利擁護の拠点として、市内7ヵ所に地域包括支援センターを設置しています。 ・緊急通報システムや配食サービスによる在宅高齢者への見守り支援や、民生委員児童委員による在宅高齢者声かけ訪問調査により、高齢者見守り体制の整備を図りました。特に昨年度については、国の経済危機対策の交付金を活用し、在宅高齢者声かけ訪問調査の未回答世帯の再調査を実施しました。 ・第4期介護保険事業計画に基づく特別養護老人ホーム、介護老人保健施設の建設補助対象事業者を選定し、平成23年度の開所に向けた支援を行いました。また、火災予防のためグループホームへのスプリンクラー設置に関する補助を行いました。 【高齢者のニーズにあわせ、様々な生きがいづくりの場を提供する】 ・高齢者の身近な憩いの場として老人福祉センターを運営するほか、教養や趣味、仲間づくりの場としてのぎく大学を開催し、14講座（前年度13講座）を実施しました。また、シルバー人材センターの活動支援を通して、高齢者の働くことによる社会参加や、いきがい作りの場の提供を行い、同センターの会員登録者数を835人（前年度723人）に増やしました。

構成事業に対する考え方（事業の量及び実施手法）	・在宅生活が困難になった要介護者の生活の場として、引き続き介護保険施設の整備を行います。また、重度の方であっても、住み慣れた地域での在宅生活を支援する地域密着型サービスを整備、充実させることで、特別養護老人ホームの待機者解消を図ります。 ・大和市に住む独居高齢者や高齢者世帯の方が安心して、健やかな生活を送ることができるよう、配食サービスや緊急通報システム等を実施する中で、見守り体制の強化を図ります。 ・また、声かけ訪問調査の結果を活用して、訪問の必要性が高いと判断される高齢者世帯を保健師やケアマネージャーが訪問指導する高齢者在宅訪問事業を通じて、健康や生活などに関する相談を受け、必要な介護・福祉サービスへつなげる手続きを行い、生活環境の向上を図ります。 ・高齢者の生きがいづくりにおいては、一部の方々に受益が偏ることの無いようにサービス提供のあり方について引き続き検討していきます。
-------------------------	--

今後の展開方針		注）例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。
新規事業の立案		（該当する事務事業）
既存事業の拡充		（該当する事務事業）
事業の廃止・縮減		（該当する事務事業）
事業の効率化		（該当する事務事業）
その他見直し	平成23年度は、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定年度にあたるため、平成24～26年度の3ヵ年の高齢者施策の方向性を決定します。	（該当する事務事業） 高齢者保健福祉計画運営管理事務

施策への提言	
総合計画審議会記入欄	